



# 北方民族博物館だより

No.89



H5.10 アツシ製手首あて<テクンペ> 1993年 高さ10cm  
北海道アイヌ 北海道二風谷 藤谷るみ子 製作

狩猟や畑仕事するときなどに手を保護するために身につけられる「テクンペ」には、手袋の親指の先と他の四本の指の部分を切り取ったようなかたちのもと、手の甲だけを覆うように巻き付けるかたちのものであり、いずれも紐を手首に<sup>ひも</sup>しめて使います。年頃の女性が心をこめて作って意中の男性に贈ったものとしても知られています。本資料は、巻き付けるタイプで、樹皮製の織物アツシを素材に、布と刺繍<sup>ししゅう</sup>で装飾されています。

## 目次 Contents

- 1 表紙 アツシ製手首あて<テクンペ>
- 2 ロビー展「北海道の古地図展：伊能大図と蝦夷地古地図の変遷」／講座「北海道の古地図展・展示解説講座」
- 3 講座「北海道の古地図にみるアイヌ語地名」／講座「北海道の古地図とその歴史」
- 4 INFORMATION

## ロビー展

## 北海道の古地図展

—伊能大図と蝦夷地古地図の変遷—

2013.4.27-6.2

当ロビー展は、アイヌ語地名研究会との共催で、伊能忠敬<sup>ただ</sup>の業績と当時の測量技術、北海道の古地図の歴史を紹介しています。展示資料は伊能大図の写し、伊能中図の写し、さらに江戸前期から明治初期までの北海道および周辺地域を表す地図の写し54点を取り込んだ解説パネルです。伊能図は実際に日本の沿岸を測量して作られた初めての日本地図です。



展示会場の様子

江戸の天文学者・高橋至時<sup>よしとき</sup>に師事した伊能忠敬は、幕府公認のもとで寛政12（1800）年から17年間かけて日本全国の沿岸を測量しました。それらを基に文政4（1821）年、大日本沿海輿地図（伊能図）が完成し、幕府に上呈されました。その後、伊能図は明治に入って皇居の火事で焼失し、控えの地図も関東大震災で焼失し、原図は失われてしまいました。しかし、複製された伊能図が発見され、今回のようにそれらが公開されています。

当館の会場には伊能大図の北海道全体を展示することができず、10m×10mほどの床面に宗谷岬からオホーツク海沿岸を経て襟裳岬までの16枚と関連図5枚、伊能中図の中の蝦夷地の複製図が床面に透明フィルムをかけて展示されました。観覧される方は自由にその上を歩いてみる事ができます。その他、樺太や千島列島を含めた北海道の古地図の変遷がわかりやすく展示され、2,673名と多くの皆様にご観覧いただきました。

(学芸員 渡部 裕)

## 講座

## 北海道古地図展・展示解説講座

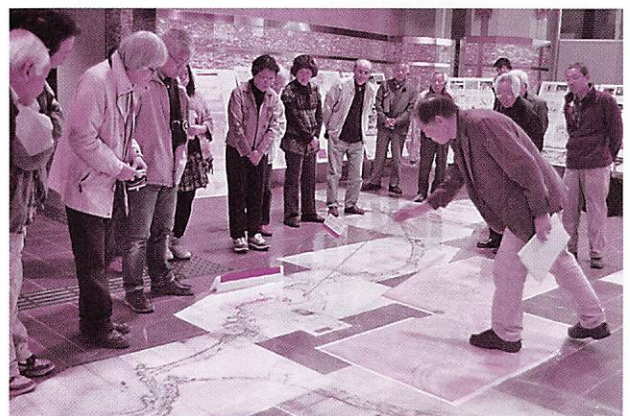
2013.4.27

講師 打田元輝氏（アイヌ語地名研究会事務局長）

ロビー展「北海道の古地図展」の展示解説講座をアイヌ語地名研究会の打田元輝氏を講師に開催しました。打田氏は今回の展示パネルなど展示全体を企画制作されています。講堂において江戸前期から作られはじめた北海道および周辺地域の地図の特徴や伊能図の概要をお話しされ、その後ロビー展会場で個々の地図について解説されました。以下にその概要を報告します。

北海道および周辺地域の地図は江戸前期から作られ、何度か各藩提出の地図を基に幕府により全国地図「国絵図」が作成されましたが、北海道とサハリンや千島列島など周辺地域の地図は今日のものとは程遠い不正確なものでした。伊能図は測量に基づいて作図された最初の精密な地図で、北海道の海岸線の形状が精密に示された初めての地図です。しかし、北海道における伊能の測量は太平洋沿岸に沿って函館からニシベツまでの一回だけで、そのほかの未測量域を測量したのは、伊能忠敬に測量技術や天文学を学んだ間宮林蔵です。間宮林蔵がどのような体制のもとで具体的に測量を行ったかは不明ですが、天塩から石狩までの西海岸や千歳方面の石狩低地帯や東海岸においても天測を実施していたことが明らかになっています。間宮は後に北海道の内陸部についても鋭意測量を行い、それらの成果が後の「北海道実測図（間宮河川図）」として結実し、松浦武四郎の地図や明治以後の北海道の地図作成に貢献したのと思われます。

(学芸員 渡部 裕)



床面に展示した伊能大図について解説する打田氏

## 講座

## 北海道の古地図にみるアイヌ語地名

2013.5.11

講師 伊藤せいち氏

(アイヌ語地名研究家／当館研究協力員)



ロビー会場にて古地図の実物を手に解説する伊藤氏

はじめに、講堂において今回のロビー展で展示されている北海道等のさまざまな古地図が作成されてきた歴史の概要を解説され、その後、ロビー展の会場へ移動して個々の地図や地名について具体的に解説をされました。以下にその概要を報告します。

最初に伊能図の見かたや伊能忠敬<sup>ただなか</sup>の測量方法を解説されました。伊能忠敬は海岸線を踏査して距離、方位や斜面の角度や距離などを記録するとともに、要所で夜間に天測を行って緯度を割り出し、その位置を確認することで地図の精度を高めていましたが、その天測を行った地点が伊能図上に記載されています。

伊能忠敬による測量のなかで最初に実施されたものが北海道の函館から厚岸、ニシベツまでの南岸部でした。伊能図の北海道部分の地名は当時のアイヌ語地名から記されたものが大部分ですが、その後の地名とは異なる地名が記されていることもあります。例えば、現在のサロマ湖は伊能図では「トキセイ湖」と記されていますが、これは周辺の地名にアイヌ語で「凸起している・もの」tokse-iを意味する地形から「トクセイ」あるいは「トキセイ」と記された地点があり、それにちなんで付けられたと思われます。また、これら古地図における現在の網走の地名は古くから「アバシリ」「ハバシリ」などと記され、古くからアバシリと呼ばれていたものと思われます。

(学芸員 渡部 裕)

## 講座

## 北海道の古地図とその歴史

2013.5.18

講師 高木崇世芝氏

(古地図研究家)



講壇に立つ高木氏

本講座では、ほぼ時系列に沿う形で計20枚の古地図をスクリーン上に表示し、それぞれが製作された経緯や製作技法、時代背景などの説明を通じて、近世の北海道(蝦夷地)やその周辺地域を描いた地図とその変遷について紹介していただきました。

最初に北海道を描いた国絵図(各藩作成の藩地図を基に江戸幕府が作成した日本地図)3点が紹介されました。このうち、正保元(1644)年に製作された「正保日本絵図」の蝦夷地図が日本国内で作成された最古の北海道地図とされています。この絵図では、蝦夷地は青森の半分程度の大きさで、形も四角形に近く、実際の地形や大きさとはかなり異なっていました。その理由としては、当時の測量技術が未熟だっただけでなく、原図を描いた松前藩の何らかの意図が反映されていることが考えられるそうです。

その後、民間でも北海道地図が作られるようになります。寛文7(1667)年頃に作成されたと思われる「蝦夷図」では、北海道はいくつかの島々と大陸から突き出した半島の集合体として描かれています。この時期民間で製作された地図には、全体的に実際の地形とかけ離れたものも多く、半島や岬が強調されたり、「大黒島」や「女島」といった架空の島々が描かれることもありました。

北海道に関連し、その北に位置するサハリン島の古地図もいくつか紹介していただきました。そのうち「黒竜江中洲并天度図」は、間宮海峡を発見した間宮林蔵によって描かれたものです。サハリンの西海岸は現在の地図とほぼ同じ形になっていますが、本人が踏査していない東海岸北部は部分的にかなり肥大した形で描かれています。

伊能忠敬と間宮林蔵によってほぼ正確に測量された北海道の輪郭を利用し、安政5(1858)年に松浦武四郎が「東西蝦夷山川地理取調図」を製作しました。この地図に細かく書き込まれた内陸部の地形や河川は松浦自身の踏査の成果で、アイヌ語を主体とした地名の表記は1万あまりに達しているとのことでした。

スクリーンに映し出された地図にまつわるさまざまな話題、そして熱のこもった講師の語り口に、参加者はすっかり引き込まれている様子でした。また、講座終了後にはロビー展会場に舞台を移し、展示されている地図を示しながら、製作時の状況や苦労などのエピソード、製作者の人となりなどに寄せる思いを語っていただきました。

(主任学芸員 中田篤)

## 第28回特別展 極北の島グリーンランド 氷海のハンター、エスキモー

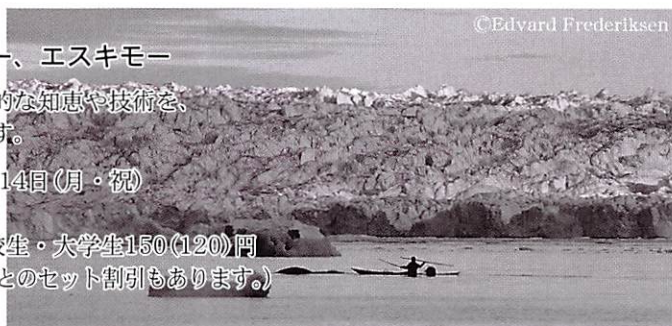
グリーンランドに暮らす狩猟民エスキモーの伝統的な知恵や技術を、自然や歴史に関する多彩な話題とともに紹介します。

- 会 期 平成25(2013)年 7月13日(土)～10月14日(月・祝)
- 会 場 北海道立北方民族博物館 特別展示室
- 観覧料 一般450(300)円 65歳以上300円 高校生・大学生150(120)円  
※( )内は10名以上の団体料金(常設展示とのセット割引もあります。)

### 【関連事業】

- ◇ 講演会 グリーンランドがたどった4500年の歴史と「今」  
7/13(土) 10:30-12:00 講師：スチュアート ヘンリ氏(放送大学)
- ◇ 講座 自治と気候変動—極北の島グリーンランドの現在  
7/28(日) 10:00-11:30 講師：高橋美野梨氏(日本学術振興会)
- ◇ 上映会 アニメ「白くまになりたかった子ども」  
8/4(日) 13:30-15:00
- ◇ 講習会 結城伸子とつくるグリーンランドのリストウォーマー  
9/15(日) 13:00-16:00 講師：結城伸子氏(造形作家)
- ◇ 講座 北極海の捕鯨民イヌピアットの1年の暮し  
9/16(月・祝) 10:00-11:30 講師：岸上伸啓氏(国立民族学博物館)

～ ほか、子ども向けの講座や展示解説会も予定しています。



ウミアック模型(国立民族学博物館蔵)

## INFORMATION

### 行事報告

◆4月20日(土)、はくぶつかんクラブ「カラフルまが玉づくり」(講師：当館・永瀬早苗解説員)をおこないました。

◆5日3日(金)～6日(月・祝)、こどもの日イベントとして「ころころフェルトボールのストラップづくり」「みんなでつくろうこいのぼり」「モンゴル衣装体験」など、日替わりでイベントを開催しました。写真は、参加者が思い思いの模様を描いたウロコを集めてつくったこいのぼりです。



◆5月25日(土)、施設見学会「はじめての北方民族博物館&道立オホーツク公園」をおこないました。

### ロビー展

◆6月8日(土)～23日(日)、当館ロビーにて、「オホーツクシリーズ」のロビー展を二本立てで同時開催しました。本シリーズ第2弾は「北海道写真館紀行(1)オホーツク編～写真館が残した数知れぬ北海道を求めて」、シリーズ第3弾は「ウイルトタ刺繍「フレップ会」作品展」でした。

### ご利用ください

◆音声ガイドの貸出サービス(無料)を始めました。北方民族博物館のオリジナル革製ケースに入ったiPod touchで、常設展示室を約30分間でご案内します。日本語、英語、中国語、韓国語の4カ国語を用意しています。



### 職員の異動

[転出]  
学芸員 角 達之助  
(渡島教育局総務課へ)

### お知らせ

◆当館の指定管理をおこなっている財団法人北方文化振興協会は、この4月1日より一般財団法人に移行いたしました。

### 北方民族博物館だより No. 89

平成25(2013)年6月28日発行  
編集・発行 北海道立北方民族博物館  
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1  
Tel 0152-45-3888 Fax 0152-45-3889  
e-mail: tonakai@hoppohm.org  
http://hoppohm.org  
指定管理者  
一般財団法人北方文化振興協会